

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372201380		
法人名	株式会社 サンケイ		
事業所名	グループホームテアフル 友明かり		
所在地	一宮市北方町曾根字村裏西15番地		
自己評価作成日	平成27年8月5日	評価結果市町村受理日	平成27年11月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&Jigvosyo_Cd=2372201380-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成27年9月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「生きているってすてき！」と思える家作りが我がホームの願い。利用者本人の尊厳を守り、認知症からくる生活障害は援助する事によって、あるいは皆と力を合わせる事によって、生活を送る事が出来るはず、と模索している。たとえ認知症の進行があったとしても、その人ならではの役割作りに着目しながら生活している。日々の活動では天気の良い日は散歩に出かけ、認知症があっても普通に生活している様子を知らせるのがグループホームの使命だと思っている。生活の中では楽しみにする事、外出や外食も積極的にやっている。夏祭りや運動会もテアフル全体の行事として、地域住民も巻き込み行っている。また、児童館の子ども達と、七夕会やXmas会で定期的に交流を持ち、昔遊びの道具を作っては、子どもたちと一緒に楽しんでいる。昔遊びの名人が、子どもたちの前で腕前を披露する顔が得意げで、相互交流に意義を感じている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームで生活している利用者が、日常生活の中で様々な活動に参加できるように、毎日の食事作りや洗濯物たたみをはじめ、作品作りにも前向きな支援が行われており、理念にも掲げている利用者が楽しく生活できることを目指している。利用者に合わせて生活を実現するために細かなアセスメントに取り組んでおり、家族にも協力をお願いしながら、思いや意向を引き出す取り組みが行われている。また、定期的な外出行事にも取り組んでおり、職員間で外出先を計画しながら、利用者が外出を楽しめるように取り組んでいる。外出の様子はホーム内に写真で飾られてあり、利用者の思い出にもつながっている。なお、当ホームは、1階フロアをグループホームから小規模多機能に移行させたことで、1ユニットのホームとして再出発しており、地域の方との交流等、新たな取り組みも行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	ユニットの出入り口・スタッフルームにて提示。「生きるってすてき」と思って頂ける様に自分らしく楽しい生活が送って頂ける様職員で共有し支援している。	法人の基本理念を掲げており、利用者がその人らしく生活できることを目指した内容となっており、理念をユニット会議の際に唱和しており、実践につなげている。また、毎月のホーム便りにも理念を記載している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	日々の散歩・買い物時は地域の方々との挨拶は行っている。行事には参加して頂ける様に交流を深めている。	代表者もある管理者が地域の住民でもあるため、地域の情報を得ながら、ホームから地域の行事に参加する機会にもつなげている。また、関連ホームと開催した春祭りには多くの地域の方の参加が得られている。	ホームに小規模多機能を併設したことで、地域の方との新たな交流も始まっている。ホームの取り組みが地域の方のニーズにつながることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の方からの誘いがあり文化祭・敬老の日・七夕など参加し支援を受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	年4回の推進会議を行い、ホームでの生活・様子などを伝え、地域の方々の情報交換に努めている。	会議は関連ホームや併設事業所と合同で開催しており、活動状況の報告が行われている。家族についても各事業所から出席している。また、運営推進会議を通じた合同の行事の開催も行っており、ホームを知ってもらう機会としている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市での勉強会・講習には出来るだけ参加させて頂く様に努めている。自分達で分からない時は相談の電話を入れて問題解決に努めている。	市内の介護事業所が集まる連絡会等の際にはホームからも職員が出席しており、意見交換等につなげている。また、市の介護相談員の訪問の際には、ホームでも受け入れを行っており、情報交換につなげている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	勉強会で学んでいる。職員全員が拘束しない様に努めている。やむを得ない時は管理者・家族様に相談をし了解をいただいている。	ホームは建物の2階にあるため、ユニットの出入り口に施錠を行っているが、併設の小規模多機能の職員と連携しながら、利用者の見守りに取り組んでいる。関連ホームと連携しながら研修会を実施しており、振り返りの機会もつづけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	勉強会・講習にて学んでいる。コミュニケーションに努め、帰所後(自宅・外出)には外傷がないか確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	使用されている方が少ない。勉強する機会があれば参加したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	家族様・関係者の方々に十分説明し分からない所を尋ね納得頂ける様に取り組んでいる。携わっていないのでわかりません。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見・要望・提案など話を聞ける場所を設けて前向きに取り組んでいる。携わっていないからわかりません。	家族会を開催している他に、運動会等の行事にも家族の参加が得られたり、定期的な面談の機会をつくっている等、要望等の把握に取り組んでいる。また、毎月発行しているホーム便りには、ホームでの様子の他にも一人ひとりの状況報告も添えられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	個人面談が行われている。管理者が職員の意見を聞く場を設け反映に努めている。リーダーに相談している。	1ユニットのホームでもあるため、職員間で検討しながら、リーダーを通じて、法人代表者でもある管理者にも伝えられ、意見等が反映できるように取り組んでいる。また、法人の運営者でもあるマネージャーによる個別面談の機会もつくられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	半年に1回面談が行われ個々に目標を持ち働きやすい様に努めている。目標設定・OJTシートの活用をし、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外分研修・勉強会に行く機会があり技術・知識を身につけられる様に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	外部研修などに参加した際には交流に努めている。研修に参加しているが交流までには至っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	常に表情・状態を見ながらコミュニケーションを取り不安・要望に沿える様な関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	なるべく要望に沿える様に努めている。 その方が今何を悩んでいるか、不安はないか話ができる様なコミュニケーションに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	現在必要な事を考え途中家族様との話し合いの場を持ち安心して生活して頂ける様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	人生の先輩として教わる事が多い。 ADL・IADLを把握し職員と一緒に家事・洗濯などを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族様が面会時に日々の生活・身体状況などを報告し信頼関係が築ける様に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	知人・友人の方が気楽に着て頂き楽しい時間を過ごしてもらえる様に努めている。	利用者の入居前からの友人、知人と交流を続けている方や、家族の協力も得ながら理美容に出かけている方もおり、一人ひとりの馴染みの関係継続に取り組んでいる。また、家族と外出している方の中には、自宅で過ごしている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	一人一人助け合いながら孤立しない様に努めている。 自分で出来ない時は他の職員を呼んで助けを求めカバー試合協力するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ホーム外の場所にて退所された家族様にばったり会った時には退所された方の様子・家族様の様子などを話したり近くに来られた時施設に立ち寄って頂ける様に声をかける様に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個別ケアし本人の意向・思いを把握し要望に沿える様に努めている。無理な時は家族様と相談し伝え納得して頂いている。ミーティング時話し合いにて検討している。	職員は担当制も活用しながら一人ひとりの把握に取り組んでおり、把握した情報は毎月のカンファレンスの機会にも報告され、職員間の共有につなげている。また、アセスメントについても定期的な見直しを行いながら、意向等の把握につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族様のアセスメントシート・情報から把握に努めている。 個々に暮らし方・生活歴を尋ねたり、情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎朝バイタルチェック・身体状態を行い記録に残している。 変化があれば記録に記載している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご家族様・本人の意見を聞きケアプラン作成しサービスに提供している。 毎月モニタリングをし半年に1回見直しがある。変化に応じてケアプランを作成している。	介護計画は、現状の4か月毎に見直しから6か月毎に移行する予定である。毎月のカンファレンスを通じたモニタリングが行われている。また、家族との面談の機会をつくりながら、一人ひとりに合わせた計画内容の作成につなげ、日常的なチェックも行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	申し送り・職員同士話し合っている。 職員同士情報交換を共有しながら支援に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	随時家族様に状況・状態を伝え・相談しその時にあつたサービスを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	2ヶ月毎に移動美容院に来て頂いている。毎月(3~4回)習字・手芸の先生の方々が見え利用者様の力が発揮出来、楽しむ事が出来る様に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	利用者様のかかりつけの病院があれば大切にし受診して頂いている。なければホームの医師を紹介し了解を経て受診して頂いている。	協力医による月1回の訪問診療の他にも随時の往診の対応も可能な体制をつくっており、状態変化に合わせた支援が行われている。また、看護師の勤務の他にも、併設の小規模多機能に看護師が勤務していることもあり、医療面での支援にもつなげている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	月2回看護の日があり診て頂いている。変化があればその都度連絡し指示・受診を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には出来るだけ面会に努め身体のケアに努めている。退院時には注意点を尋ね状態の変化があればすぐ対応が出来る関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	利用者様の状態を見て家族様と相談しながらその方にとって一番良い方法を考えながら取り組んでいる。	ホームでは看取りに向けた支援が行われており、家族にも協力してもらい機会もつくりながら支援が行われている。また、職員に対する研修会の機会をつくりながら、職員間の連携を深めたり、資質向上に向けた取り組みが行われている。	ホームでは、家族と一緒に過ごしてもらい取り組み等、ホームで出来る支援を考えている。看取り支援を希望している方もあり、ホームでの経験を活かしながらより良い支援につながることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	勉強会に参加している。がすべての職員が応急手当・初期対応が出来ていない様に思える。実践力を身につける様に勉強を増やし実践に役立てる様に努めてたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に防災訓練は行っている。実際に発生したら戸惑うのではないかな？備品の期限切れ・買い忘れがないかチェックしている。	年4回の避難訓練では、ホーム単独の訓練や関連ホームとの訓練が行われており、消防署の協力も得られている。また、地域の訓練の際にはホームからも参加する機会をつくっている他、ホーム物置内に水や食料等の備蓄が行われている。	関連ホームとの訓練を行い、職員間の連携に取り組んでいるが、1階の併設事業所との連携等が今後に向けたテーマでもある。職員間での検討等、非常災害時の連携が深まる取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人一人尊重しプライドを傷つけない様声かけをに努めている。 その方にあった声かけ・対応に努めている。	職員には利用者を人生の先輩として、尊厳に配慮するように伝えられ、言葉遣い等への配慮にも取り組んでいる。また、職員の接遇面については、ホーム内研修や関連ホームとの研修会等の機会もつくられている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常生活で表情・会話の中で読み取り、利用者様の希望・自己決定が出来る様に支援している。希望・自己決定しやすい様に信頼関係を作るように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	行事が多いがゆったり過ごして頂き本人のペースを大切にし有意義に過ごして頂ける様に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	一緒に買い物・ショッピング(服・靴)など行っている。自分で選べない方は職員が寄り添って決定が出来る様に努めている。 衣類の汚れもチェックしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食べたいものを尋ねメニューに取り入れ、食事作りもその方の能力を把握し一緒に行って頂ける様に努めている。	メニューについては、利用者の嗜好や好みにも配慮しながらつくられており、利用者も買い物、調理、片付け等、出来ることに参加している。また、食事の際には職員も一緒に食事を行っている他、おやつ作りや行事食も行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事摂取表をチェックしている。栄養が偏らない様にバランスを考えて提供している。 咀嚼が上手く出来ない方にはミクサー・刻みなどにて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアに努め、自分で上手く出来ない方は職員が横につき口の中を確認し再度口腔ケアを行っている。 口臭に市販の物を使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	時間を見てトイレ誘導を行っている。排泄の失敗・パターンを把握し自立に向けての支援に努めている。 嫌がる方には無理せず幾度か声をかけて排泄が行える様に努めている。	利用者の身体状態に合わせた排泄チェックが行われており、排泄状態を維持しながら、トイレでの排泄ができるように取り組んでいる。また、ヨーグルトを提供したり、運動を取り入れたりする取り組みも行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	食物繊維の多い食事を提供している。 排泄が上手く出来ない方は薬・センナ茶など提供している。 排泄チェック表を見ながら支援に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	職員の都合で(行事・遠足など)入浴して頂いている日もあるが、それ以外は気の合った方とゆっくり入って頂ける様に努めている。	現状、1日おきの入浴となっており、入浴を拒む方には気分を変える等の取り組みが行われている。浴槽が大きいので、ゆったりと入浴を楽しむことができ、入浴剤を使用したり、時にはみかんを入れたりする等、季節の入浴も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	自室で休んで頂いたり、ソファにて寛いで頂いている。 本人が気持ちよく寝て頂ける様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	全職員が薬に対して理解が出来ているか分からない。疑問に思った時は本を見たり、看護師に聞き理解するように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	日常生活の中にて個々の能力が発揮出来る様に洗濯・調理・掃除・片づけなど手伝って頂ける様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	気分転換に外食・喫茶店・買い物・ドライブなどの支援に努めている。 要望に沿える様に努めているが無理な時は家族様に相談をし協力をお願いしている。	ホームでは、利用者が日常的に外出できるように、天候等を見ながら日常的に散歩等に出かけるように取り組んでいる。また、外食を行ったり、季節に合わせた外出行事も行われている。また、希望等に合わせた墓参り等の個別の外出も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	理解されている方が少ない。理解されている方は一緒に買い物に出かけ自分の財布の中から払って頂ける様に努めているが、時々理解出来ない時もあるので横につきアドバイスをし出来る様に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	施設からの行事の招待状・暑中見舞いなど関する手紙などは自分で出来る方には書いて頂いている。 電話は本人の要望に沿える様に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	トイレ・居室にはわかりやすい様に紙を貼って目印にしている。 花・季節の物を廊下・壁に置き居心地よく生活出来る様に努めている。	リビングはゆったりとしており、2階で窓が南向きに大きいため、採光に優れた環境である。リビングの壁や通路には、利用者の作品が多く飾られている。また、通路には畳の腰掛けが設置されてあることで、利用者一人になりたい時に過ごすことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロアー・廊下にて一人で過ごせれる空間があり中の良い方との会話が楽しめる様にソファー・椅子も置いて生活して頂ける様に工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家族の写真・ペットの写真・置物など置いたり、飾ったりして居心地よく生活出来る様に工夫をしている。	居室には収納スペースが設置されてあることで、居室内を広く利用することができ、利用者の意向等に合わせて家具類の持ち込みや写真等が飾られてある。また、ベッドは備え付けであるが、希望により布団を敷いて生活することもできる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	利用者様の出来る事・出来ない事を把握し自立した生活が出来る様に努めている。戸惑っている時は様子を見ながら声かけを行っている。		